Library News
京教図書館 ニュース
2014年4月号 No.163

『主題と変奏』
吉田 秀和著
中央公論新社, 2011 年
ISBN : 978-4122054714
購読手続き中

私のすすめるこの1冊

小笠原 真也（音楽科 教授）

『主題と変奏』

吉田 秀和著

音楽ってなんでしょう？どうして自分はその曲が好きなのか、なぜその曲に感動するのか、皆さんはそんなことを考えたことありますか？

著者の吉田秀和氏（1913～2012）は常に日本の音楽評論界をリードし続けた人物で、その評論対象は作曲家、作品、演奏家、録音等のクラシックに関するものはもちろん、絵画など多岐にわたり、著作物はエッセイとしてはもちろん、クラシックに造詣の深い方が読めば、その展開はスリリングですらあります。

その表現は、世間の風評や大勢の意見に左右されることなく、大家と称されるような演奏家についても、いわゆる「歯に衣着せぬ」見解を堂々と開陳しています。それは例えば、20 世紀を代表する大ピアニスト、ホロヴィッツが来日した折の演奏を「なるほど、この芸術は、かつては無類の名品だったろうが、今は――最も控えめにいっても――ひびが入ってる。それも一つや二つのひびではない」と評したことからもうかがえます。

また、自らの感性を信じて良否を語る姿勢を崩さず、評論家のスタンスとして決して一方通行になりません。先のホロヴィッツについても再来日の際には「この人は今も比類のない鍵盤上の魔術師であると共に、この概念そのものがどんなに深く十九世紀的なものかということと、当時の名手大家の何たるかを伝える貴重な存在といわねばならない」と称賛しています。

音楽を論ずる以上、ある程度の専門的な言葉の使用は避けられませんが、クラシック音楽に興味のない方にとっても、その内容は非常に分かりやすく書かれています。評論の手法は大変分析的でときにはかなり専門的な領域にまで踏み込みますが、文章は格調高く文学的で、まさに「名文」というにふさわしいものです。

そんな、日本のクラシック界に多大な影響を与え続けた著者の最初の評論集が、今回ご紹介する「主題と変奏」です。解説者の指摘にもあるように、「すぐれた処女作のつねとして、この本には、その後の吉田氏の批評の核心をなすものが、あるいは萌芽のかたちで、あるいはすでに充分に成熟したかたちで、集中的に立ち現われて」います。

本文から若干引用すれば、「音楽は、ほとんど数学的思考の厳密と透明をもちながら、心情と感覚の世界を通じて、陶酔と忘我を実現してくれるものだ。」あるいは「天才とは、才能の量の問題じゃない。根元的な、初発的な存在感を、ぼくらにあかす人だ。」など、含蓄のある言葉が見られます。

著者にはクラシック初心者のための、作品紹介を主な目的とした文章もあり、そのようなものと比べるとこの「主題と変奏」はやや気難しい印象を与えるかもしれません。しかしクラシック音楽にほんの少しでも興味を持った方は、まず比較的平易な著作から始めて、吉田秀和氏の創作の道程を辿っていただければ、「音楽」への理解がより深まると思います。

日本のクラシック界にとって、吉田秀和氏の如き人物を、戦後の混乱期から現代に至る時代に得ることができたということは、何事にも代えがたい幸運であったと言えます。

＊新入生のみなさんへ＊

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

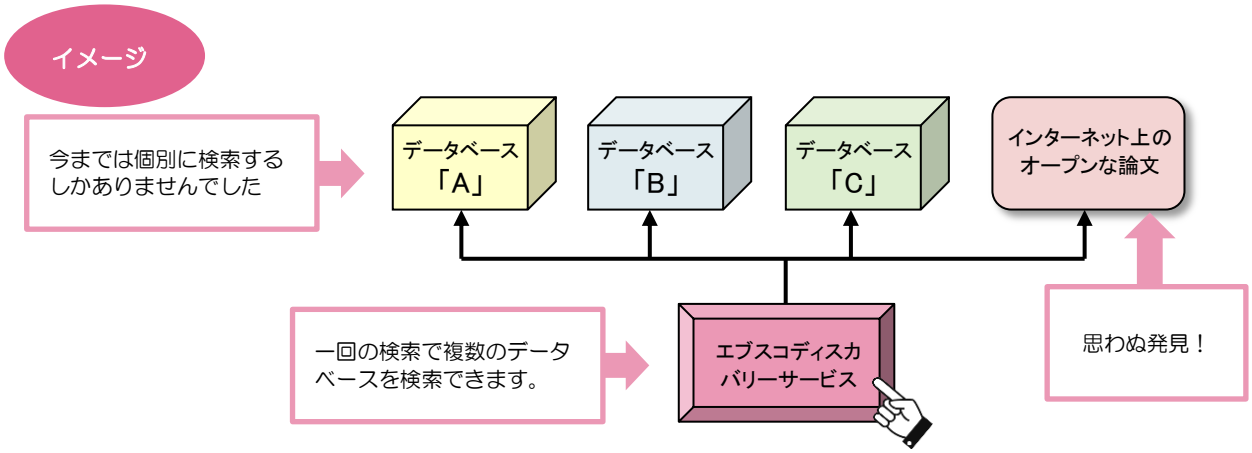
みなさんの大学生活が豊かなものとなるよう、図書館職員一同、心からお祈りしております。

大学の図書館は、高校の図書室や公共図書館と違って、学術的な専門書がたくさんありますが、本学は大学図書館にしては珍しく、小説や絵本なども結構置いています。まずは一度、見に来てください！

図書館からのお知らせ

新サービス「エブスコディスカバリーサービス」が使えるようになりました

エブスコディスカバリーサービスとは EBSCO 社が提供する文献検索サービスで、ひとつの検索画面から、本学が契約しているデータベースの文献やインターネット上にある文献などを一度に検索することができるサービスです。本文が読めるリンクも多数存在します。今までのように複数のデータベースをいちいち検索しなくてもよいため、資料収集にかける手間を減らすことができます。また、思わぬ情報が手に入ることもあります。



※より詳しい検索をする時などは、各データベースを個別に検索してください。

※本学が契約しているすべての有料データベースを検索できる訳ではありません。

図書館への入館方法と利用証について

学生証の IC カード化に伴い入館ゲートを改修したため、それぞれ下記のような対応となります。

学部生・大学院生（特別専攻科生を含む）…IC カードをゲートにかざして入館

科目等履修生…学生証のバーコードをゲートにかざして入館。
学生証が配布されるまでは、カウンターにお声かけください。職員が手動でゲートを開けます。

教職員（附属学校教職員を含む）…従来の磁気カードをバーコード付き利用証と交換します。

卒業生…平成 25 年度卒業生よりバーコード付き利用証を発行しています。従来の磁気カードをお持ちの方は、バーコード付き利用証と交換しますので、図書館にて更新手続きをしてください。（本人確認書類が必要です）

一般利用者…新年度の利用証を発行いたしますのでお手続きください。（本人確認書類が必要です）
従来どおり、カウンターの職員に図書館利用証をご提示の上、ご入館ください。

講習会のお知らせ　（時間など、詳しい情報はホームページやチラシをチェックしてね！）

図書館では今年度も、さまざまな講習会を予定しています。知って損はありません。ぜひご参加ください！

区分	講習会名	内容	実施期間	授業	レベル
館	図書館ツアー	まずは館内を歩いてみよう	4 月 9～11 日、14～16 日	●	★
本	OPAC 図書・基礎編	図書の検索と館内での探し方	4 月 9～11 日、14～16 日	●	★
本	OPAC 図書・応用編	いろいろな資料の探し方	5 月 20～23 日		★★
論	OPAC 雑誌編	雑誌の検索と館内での探し方	5 月 13～16 日	●●	★
論	CiNii 基礎編	国内論文の検索と閲覧	5 月 13～16 日	●●	★
論	CiNii 応用編	CiNii を賢く便利に使おう	5 月 20～23 日	●	★★
館	他大学図書館の利用法	本学にない資料を利用するには	5 月 20～23 日	●	★
新	新聞データベース	新聞記事を検索する、読む	4 月 17～18 日、22～25 日		★★
本	ジャパンナレッジ	辞事典を検索する、読む	4 月 22～25 日		★★
論	エブスコディスカバリーサービス	さまざまなデータベースを一括検索する	5 月 27～30 日	●	★★
館	国会図書館の利用法	日本最大の図書館を活用する	5 月 27～30 日		★★
論	オープンアクセス論文	無料で読める論文を知る、検索する	5 月 27～30 日		★★
論	EBSCOhost	海外論文を検索する	6 月 3～6 日		★★★
論	ScienceDirect,Springer	海外論文を検索する	6 月 3～6 日		★★★
集	文献管理編	集めた論文を管理する	6 月 3～6 日		★★★

区分：「館」＝図書館利用　「本」＝図書の検索　「論」＝雑誌論文の検索　「新」＝新聞の検索　「集」＝資料管理

授業：●＝基礎セミナーで指導。学部 1 回生は図書館ガイダンスの日程を確認してください。先に予習しておくも良し。
本学で初めて学ぶ院生、編入生などにおすすめです。学部 2～4 回生もおさらいしたい方はぜひどうぞ。
●＝ゼミ単位のガイダンスでの基本指導内容。実施予定があるかどうか、指導教員に確認してください。

レベル：★＝初級　★★＝中級　★★★＝上級　ただし、あくまで参考程度です。必要な分野は専門により違いますので、
自分に必要と思うものを選んで受講してください。迷う場合は、指導教員や図書館員にご相談ください。

企画展示・イベント案内

開催中

第 18 回教科書展　中等音楽科教科書編

戦前・戦後の教科書と教育の歩みを紹介する教科書展。第 18 回目は音楽の中等教科書や楽器などを展示します。めずらしい楽器も多数展示され、まるで音楽室のような雰囲気に!?ぜひお越しください。

開催期間：　平成 26 年 3 月 31 日(月)～4 月 30 日(水)　9:00～17:00
※土日祝を除く。ただし、4 月 12 日(土)はふれあい伏見フェスタのため、10:00～16:00 で開催
開催場所：　附属図書館北館 1 階　企画展示室
※入場無料。どなたでもご覧いただけます。

第 22 回　うたとおはなしの会

「小鳥たちの鳴き声や優しい春風に、色とりどりのお花たちがうれしそうに揺れています。春はみんなを笑顔にしてくれる季節ですね。大学のキャンパスにも春がやってきました。うたとおはなしの会では、ゴールデンウィークを前に、季節を満喫できるうたやお話が盛り沢山です。大好評の人形劇は「赤ずきんちゃん」 を上演予定! 皆様のお越しを心よりお待ちしています。」

開催日時：　平成 26 年 4 月 26 日(土)　11:00～12:00
開催場所：　附属図書館北館 2 階　研修セミナー室 1
対　　象：　幼児(3～6 歳頃)と保護者　※0～2 歳児も大歓迎！
申込方法：　保護者氏名、子どもの名前と年齢、電話番号を、はがき・電話・FAX・E-Mail でご連絡ください。
申 込 先：　電話:075-644-8176　FAX:075-644-8182　E-Mail:tosomu@kyokyo-u.ac.jp(@は半角)
※無料です。 その他詳細は掲示またはホームページ等でご確認ください。

論のくちび 理のむすび

京都教育大学紀要（大学発行の学術雑誌）に掲載された論文を、執筆した先生本人にご紹介いただくコーナーです。

今回の執筆者　榊原 禎宏（教育学科 教授）

「校内研究における『仮説－検証』問題」

榊原 禎宏

京都教育大学紀要.　2013, No.123, pp.171-181

教職を目指す皆さんは「いい授業」ができるようになりたいと考えていることでしょう。「いい授業」は児童・生徒の知識や技能を増やし、意欲を高める点で望ましいだけでなく、何よりも教員にとって大きな喜びです。そのために日本の学校であまねく行われているのが、校内研究（校内研修）です。これは義務教育学校でとりわけ熱心に取り組まれ、教員全員で年間を通じ、あるテーマについて研究仮説の設定、学習指導案の検討、研究授業の実施、事後の検討、研究のまとめ冊子の作成、という流れがおおよそ見られるものです。

ところが興味深いことに、教員にとって校内研究がやりがいの持てるものかというと実はそうではなく、むしろ事態は正反対で、多くの教員は必ずしもやりたいわけではない、この進行役である研究主任にまず誰も進んでは就きたがらない、という不思議な現象が観察されます。本論文は、「いい授業」をしたくて教員になっているはずなのに、校内研究を忌避するのはなぜか、という謎を解こうとするものです。

そのために論文では、まず改めて授業とは何かを考察し、再現性の乏しさ、非システム的（「いつでも、どこでも、だれでも」そうなる訳ではない）な特性を明らかにします。そして、こうした領域で自然科学にて用いられる「仮説－検証」という方法を援用することの無理さを導きます。教員の性別や年齢、風貌や振る舞い、児童・生徒の人数や構成、さらには当日の天気やあれこれのハプニングによって、授業は一回きりのものとして多様に生成するにもかかわらず、「～すれば、～になるだろう」と法則的に考えること自体が誤っている、つまり、校内研究は出発点から間違っているために、この後どのように進めようとも「やっつけ仕事」にならざるを得ず、また公開される授業は見世物、つまりは「やらせ」に留まっている実態を説明しました。

この論文では、こうした状況を克服し、やりがいのある校内研究にする上での眼目も提案しています。教員として離れることのできないテーマですから、ぜひ一度読んでみて下さい。なお、日本の様子と大きく異なる授業研究を進めるドイツでの事例について、次の論文を準備中です。こちらにも関心を持ってもらえれば嬉しく思います。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 123 号に掲載されています。
※京都教育大学リポジトリ「クエリ（KUERe）の森」http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/　にも公開されています。

開館日程　□9:00-21:00　■9:00-17:00　■休館(CLOSED)
■学内者のみ(9:00-17:00)

2014年4月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

4/9　前期授業開始

2014年5月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	13	13	14	15	16	17
18	20	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

●京都教育大学附属図書館ホームページ
http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/
●携帯版図書館ホームページ
http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm

QR コード↑

京教図書館 News No.163（2014 年 4 月号）
発行日：平成 26 年 4 月 1 日
編集発行：京都教育大学附属図書館
問い合わせ先：library@kyokyo-u.ac.jp

京都教育大学